

10

月15日～17日

第64回海外日系人大会いよいよ開幕

10月15日より、第64回海外日系人大会がいよいよ開幕する。今大会では「乗り越えよう、分断と対立の時代を!～共生の実現に貢献するニッケイ社会」を総合テーマとし、日系人・ニッケイ社会が共生社会の実現にどのような貢献をしてきた(している)のかについて、様々な事例を紹介する。昨年の第63回大会同様、JICA市ヶ谷ビル(国際会議場)をメイン会場に、初日には開会式、基調講演、特別セッションと、夕刻には海運クラブにて参加者歓迎交流会を行う。2日目は国際シンポジウムのほか、外務大臣主催による歓迎レセプション、3日目には、「日系人の主張」「在日日系人スピーチ」「大会宣言発表」および衆参両議院議長主催による昼食会が予定されている。2日目の国際シンポジウムに参加しない人々のために、横浜中華街や三溪園などを視察するオフィシャルツアーも企画している。

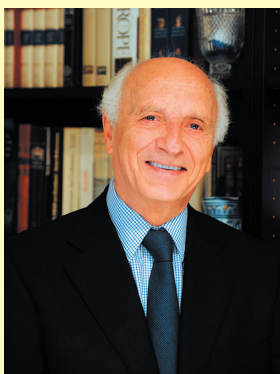
レセプションやツアーを除く主要プログラムについては、日本語・英語・スペイン語・ポルトガル語による同時通訳を配し、オンラインによる同時配信も実施する。

会場での対面参加は移住者・日系人および海外ニッケイ社会の一員として活動に参加している非日系の方々を対象としているが、オンライン視聴についてはどなたでも参加可(事前登録要・参加費無料)となっている。オンラインの参加登録は当協会WEBサイトから受付中。直前まで登録可能なので、関心のある方はぜひ登録を。(「海外日系人大会」で検索)



第63回大会の開会式

共生社会の実現とニッケイ社会



基調講演スピーカーのリクペロ氏

初日、基調講演のスピーカーには、サンパウロ・ジャパンハウス名誉館長のルーベンス・リクペロ氏をお迎えする。リクペロ氏は、

1937年サンパウロ生まれ。ブラジル財務大臣、大統領府副長官、大統領特別顧問のほか、国連貿易開発会議(UNCTAD)の事務総長、国連事務次長などを歴任してきた。今回は、ジャパンハウスの名誉館長として、リクペロ氏の目から見たブラジルへの日本人移民の貢献とニッケイ社会の役割、日本への期待などについてお話いただく。

特別セッションでは、アジア系米国人として初めて閣僚を務めた故ノーマン・ミネタ氏の半生と日系アメリカ人の歴史を描いたドキュメンタリー「アメリカンストーリー: ノーマン・ミネタとそのレガシー」を上映。制作者にもお話を伺う。

2日目は、国際シンポジウムとして2つのパネルディスカッションを実施する。パネル1では、「共生を実現したニッケイの活力」をテーマに、各国のニッケイ社会で行われてきた様々な活動が、共生社会の実現にどのような貢献をしてきたのかを振り返る。在日日系社会の子弟教育や生活支援等の状況についても紹介する予定だ。パネル2では、「共生社会に貢献するニッケイ新世代」をテーマに、若い世代の活躍や新しい取り組みが、共生社会の実現に貢献している事例にスポットを当てる。

大会3日目には、テーマを限定せずに5分間の中で自由に発表を行う「日系人の主張」を今年も実施する。様々な視点から、思いのテーマで発表されるスピーチにぜひとも注目いただきたい。また、日本で生活する日系の若者たちによる「在日日系人スピーチ」では、三重県の県立高校に在籍する生徒3名が、将来の夢や目標をテーマに日本語で発表を行う。

戦争や人種差別といった数々の困難を乗り越えてきた日系人・ニッケイ社会だからこそ、分断と対立が続くこの時代に、何かしらのアイディアやモデルケースを示せるのではないかな。新旧世代双方の活動事例を中心に、過去から現在、未来へと続く共生社会の在り方について、今大会が広く考える機会となることを期待している。

JICA横浜 海外移住資料館 夏休みイベント

当協会が管理・運営を受託しているJICA横浜 海外移住資料館で、8月に夏休み特別企画として実施した3つのイベントをご紹介します！

8月17日(土)「紙芝居でまなぶ海外移住のお話」

夏休みイベント第1弾として8月17日(土)に実施したのは、紙芝居師による実演会「紙芝居でまなぶ海外移住のお話」。昔懐かしの街頭紙芝居師が資料館にやってきて、資料館のオリジナル紙芝居『弁当からミックスプレートへ』『ハワイにわたった日系移民』『海を渡った日本人』を1話ずつ、3回に分けて実演した。

紙芝居の後には、日系人や海外移住に関するクイズ大会で子どもたちが盛り上がり、小さなお子さんを連れたファミリー層からご高齢の方まで、たくさんの方がプロの紙芝居師による紙芝居イベントを楽しんだ。

参加した30代の方からは、「紙芝居を通じて、自分があまり知らなかった海外移住について、わかりやすく学ぶことができた」との感想、70代の方からは「子どもの頃、公園に紙芝居を見に行っていたので昔を思い出してとても懐かしくて嬉しかった」との感想をいただいた。

実演してくれた紙芝居師のスズキスズさんは、「同じルーツを持った人々が、見たこともない異国への人生を賭けた冒険に出かける物語は、大人たちだけでなく小さな子どもたちの興味も引き



プロの紙芝居師による実演に引き込まれる子供たち

つけるもので、訪れた皆さんが目を輝かせて見てくれていたのが印象的だった。ここから、彼らの人生や生活にプラスになるものを感じ取ってくれていたら、演じ手としてとても嬉しい」と語った。



紙芝居後のクイズ大会も大好評

8月24日(土)「パスポートのお話と印章ワークショップ」

第2弾は、8月24日(土)に実施した、小学3年生以上を対象とした「パスポートのお話と印章ワークショップ」。事前予約制で2回に分けて実施し、保護者を含めた約50名が参加した。

参加者は、最初に資料館学芸員によるパスポートの歴史についてのミニ講義で、幕末に発行されたパスポートから現在発行されているパスポートまでの移り変わりや、その役割などを学んだ。講義の後には、常設展示場に展示されている「(御免の)印

章」と呼ばれる昔のパスポートを、自分用に制作するワークショップを開催。資料に基づき、できる限り忠実に幕末当時のパスポートの成り立ちについて体験してもらった。

150年以上前のパスポートは、現在のものと違って1枚の紙切れだったということに驚いたり、写真ではなく文字で顔の特徴を書くのに苦労したりしながらも、親子で楽しく学ぶ参加者の様子がとても印象的だった。



パスポートの歴史についてのミニ講義

8月31日(土)「ビン釣り競争に挑戦」



たくさんの方が参加したビン釣り

8月最後のこの日、イベント第3弾として実施したのは移民船で行われていた船上運動会の人気種目「ビン釣り競争」体験イベント。大型台風10号の接近で、直前まで開催自体が危ぶ

まれたが、当日は子ども連れのファミリー層やカップル、友だち同士で訪れた若い世代を中心に100名近くが参加する大盛況イベントとなった。会場内では、船上運動会についてパネル展示や動画でも紹介しており、ビン釣り競争をきっかけにして多くの方が移住や移民に関心を持ってくれた。

単純そうに見えてなかなか難しいこのビン釣り競争。参加した方々は集中して楽しんでいて、見事ビン釣りに成功した方へは、景品として中南米の民芸品をプレゼント。「かつて海を渡られた方々も同じように楽しんでいただけたらと思う、楽しい以上の経験になった」との感想をいただいた。



集中して何度もチャレンジする子どもたち

在日
日系人は
いま...

ペルー独立記念日に EXPOFEST開催



ペルー共和国の独立記念日である7月28日(日)、東京都港区にあるTOKYO PORTCITY TAKESHIBAにて、日本に住む外国人を対象とした国際送金サービスを提供しているキョウダイ・レミッタンス(株式会社ウニードス)主催のイベント「EXPOFEST」が開催された。



琉球國祭り太鼓のパフォーマンス

日本国歌とペルー国歌の斉唱で始まった開会式では、来賓として駐日ペルー大使館、在東京ペルー総領事館、ペルー日系人協会、外務省の代表がそれぞれ挨拶した。続いて、キョウダイ・レミッタンスの本本結一郎社長が主催者挨拶を行った。その後、琉球國祭り太鼓のパフォーマンスが始まると、会場内は身動きが取れなくなるほどの多くの観衆で埋め尽くされた。さらに、今回が初来日となるペルーの大人気アーティスト、ラウル・ロメロ氏がステージに登場し、ペルー本場のラテン音楽の演奏が続くと、会場内のボルテージは最高潮に達した。

建物外の広場では、ペルー料理の「ロモ・サルタード」や「パバ・ア・ラ・ワンカイナ」などのほか、ペルーのビールやインカコーラなどを販売するキッチンカーが出店し、それらを買求める客が長い列をなしていた。

今年は、1899(明治32)年に日本人がはじめてペルーに集団移住した年から125周年にあたる。同時に、日本に移り住むペルー人の数が飛躍的に増加した1989年から数えて35周年でもあり、在日ペルー人社会ではこの2つの節目の年を祝おうという機運が高まっている。会場内には、在日ペルー人の都道府県別の人口や男女比などの統計資料のほか、写真パネルなども多数展示されていた。

この日の東京の最高気温は37度。ペルー国旗を持って記念撮影をしたり、演奏に合わせて踊ったりする来場者も多数おり、会場は、猛暑に負けない熱気で包まれていた。



ペルーの味を求めてキッチンカーには行列が

マリオ・トヨトシ駐日パラグアイ大使が着任



8月14日、マリオ・トヨトシ駐日パラグアイ共和国大使が着任の挨拶のため、当協会田中克之理事長を訪問した。パラグアイからは田岡功氏(2004~2009年)、豊歳直之氏(2009~2018年)に続き、3人目の日系人駐日大使となる。

豊歳直之元大使の次男にあたるマリオ・トヨトシ大使は、1994年に国際基督教大学(ICU)で政治学学士号を取得。日本留学中にデューク大学に交換留学生として渡米し、中南米の政治について学んでいる。幼少の頃から毎年のように来日し日本の親戚を訪ねていたが、ICUに入るまでは日本語の読み書きができなかったと、それがまるで嘘のような流ちょうな日本語で話してくれた。

今回の駐日大使着任は、パラグアイのペニャ大統領からの特命を受けてのこと。父親の直之氏が8年間をかけて日本とパラグアイとの関係を良いものに築き上げてきたが、戦略的パートナーとして、それをさらにアップグレードするためにどうしたらよいかを考えたいと言う。また、2025年に開催される大阪万博では、コミッショナーとしての役割も担っている。パラグアイ、日本、さらに世界の日系人の期待を背負い、駐日大使としての業務に邁進したいと抱負を語った。



左から海外日系人協会椿秀洋専務理事、トヨトシ大使、田中理事長



パネルディスカッションのひとつ

パンアメリカン日系人大会2024

パラグアイで盛大に開催

9月6日から8日、パンアメリカン日系人大会（通称COPANI）がパラグアイの首都アスンシオンで開催された。

COPANIは、南北アメリカ大陸の加盟国が持ち回りで2年に1度開催している日系人による日系人のための大会で、1981年にメキシコで開催された第1回大会から数えて、今回が21回目の開催となった。本来は2021年に予定されていたパラグアイでの開催だが、コロナ禍の影響で見送られ、この度、2019年の米・サンフランシスコ大会以来5年ぶりの開催となった。

「持続可能な未来を共に築く」をテーマに



開会式であいさつする田中理事長

今大会では、「持続可能な未来を共に築く」を総合テーマに、現代社会が直面するさまざまな課題に対して日系人としてどのような貢献ができるかについて議論された。特に、女性の活躍や世代間交流、若い世代のリーダー育成、持続可能なビジネス等についてスポットが当てられた。

初日の9月6日、会場となったホテル「バセオ・ラ・ガレリア」で開催された開会式では、当協会田中克之理事長も登壇しスペイン語で挨拶を述べた。午前中には、女性の活躍についての講演やパネルディスカッションが、午後には日系組織の経験と持続可能な戦略等についてのパネルディスカッションに加え、ジャパントイムス社の末松弥奈子会長による基調講演が行われた。

国や世代の垣根を超えて

2日目は、ビジネスにおける持続可能性をテーマに、日系の歴史とレガシーを普及するためのデジタルプラットフォームの活用、デジタルマーケティング、SDGsの実現に向けたパンアメリカン日系人協会の貢献と役割、ラテンアメリカにおける日本食の広がりや影響などについて、講演やパネルディスカッションが行われ

た。また、同時進行でユースのセッションも行われた。

最終日の午前中にはアスンシオンの市内をめぐるバスツアーも行われた。午後には、パラグアイの日系2世たちによって設立された「セントロ日系」の施設へ移動して閉会式が行われ、次回2026年の開催地となるブラジルの代表者へ大会のバナーが引継がれたほか、夜空を彩る盛大な打ち上げ花火で大会が締めくくられた。



12カ国から約550名が対面で参加した

2世が中心となって立ち上げられ長らく運営されてきた同大会だが、近年は3世、4世など若い世代が多く参加するようになっていく。カラオケ大会や駐パラグアイ日本大使公邸でのレセプションなどもあり、参加者は国や世代を超えて大いに交流を楽しみ、刺激を与え合い、日系というルーツを柱に連携を深める機会となっていた。



ブラジルからの参加者たち



パラグアイ伝統のボルドダンス

日本から参加した当協会田中克之理事長のコメント

COPANIは、パンアメリカン日系人協会（APN）がその総会（代表者会議）で行う2年毎の開催地決定を受け、開催地の日系団体が中心となり開催する大会である。その内容は日系人の現状や将来について討議する部分（講演やパネルディスカッション）と親睦目的の行事（レセプション、市内ツアー、カラオケ大会など）に大別される。

今回のCOPANIではセントロ日系（2世、3世の若手日系人が中心の団体）が開催団体となったが、その大会運営振り、基調講演やパネルディスカッションのテーマ選びや人選には目を見張るものがあった。多くの若者がボランティアとして参加していたが、彼らの真摯な対応ぶり、また日本語能力の高さにも感心させられた。

大会事務局によれば今回のCOPANI参加者は対面で549名（うちパラグアイ366名）、オンラインで100名（うちパラグアイ30名）との由であるが、この側面から見ても大成功の大会であったと言える。

なお、COPANI開催前日に開かれた APN総会（代表者会議）では、7年に渡りAPN会長を務めたFernando Suenaga 氏（ペルー）の後任に、Valter Sasaki 氏（ブラジル）が選出されたことを付言しておきたい。



Seguro Desemprego para segurado proximo aos 65 anos 65歳を迎える被保険者のための失業保険

(公財)海外日系人協会 日系人相談センター

■相談受付 月曜日～金曜日(土・日曜、祝祭日を除く)
14:00～17:30

■対応言語 ポルトガル語、スペイン語、日本語

■電話番号 045-211-1788

相談センター 山形エレナ

Q No início do ano 2000, com esperança de uma vida melhor, eu e meu marido, ambos nisseis, juntamente com dois filhos de 6 e 8 anos na época, viemos ao Japão para trabalhar em uma fábrica de autopeças. Como falávamos o idioma japonês, fomos enviados para uma fábrica de pequeno porte. Por 3 anos trabalhamos como part-timer e o dono da empresa vendo a nossa rapidez no aprendizado, no trabalho confiável e o bom relacionamento com os outros funcionários, nos registrou como funcionários efetivos com as mesmas condições dos funcionários japoneses.

Atualmente, tenho 63 anos e meu marido 66. Quando meu marido completou 65 anos, o dono da fábrica solicitou que ele continuasse a trabalhar até os 70 anos sem nenhuma alteração contratual (mensalista e bônus 2 vezes ao ano), com possibilidade de trabalhar até os 75 anos, visto que ele é um dos melhores funcionários da fábrica e ainda não gostariam de substituí-lo, então ele aceitou a proposta, pois assim aumenta um pouco o valor a receber da aposentadoria. Como meus filhos trabalham e moram em cidades vizinhas com suas famílias, pretendo trabalhar somente até os 65 anos porque enquanto estiver saudável física e mentalmente, gostaria de ter mais tempo para mim e para meus netos. Então gostaria de saber até que idade é possível receber o seguro-desemprego e como é feito o processo de recebimento.

A Creio que quando vieram ao Japão, mesmo com o domínio do idioma devem ter enfrentado muitas dificuldades tanto no trabalho como na criação dos filhos, mas a dedicação e perseverança de vocês, foi o que gerou o fruto da confiança em seus trabalhos, aumentando assim a confiança das pessoas ao seu redor.

O Subsídio aos Trabalhadores em Busca de Emprego (kyushoku-sha kyufu) do Seguro-Desemprego é um subsídio dado aos trabalhadores que ficaram desempregados, e tem como objetivo estabilizar sua vida e dar apoio a suas atividades em busca de emprego para que possam arrumar um novo emprego o mais rápido possível. Este subsídio compreende o Subsídio Básico (kihon teate) para os segurados em geral (até 65 anos incompletos), o “Subsídio aos Trabalhadores Idosos em Busca de Emprego (Konenrei Kyushokusha Kyufukin)” para os segurados de idade acima de 65 anos que continuem a trabalhar continuamente etc.

O número de dias a receber do subsídio básico diário dependerá do tempo de cadastro e a idade. Até a idade 65 anos incompletos (segurados em geral) recebem o subsídio básico (kihon teate) do seguro-desemprego de acordo com a faixa etária e período de segurado. As pessoas que se desligarem da empresa após 65 anos, receberão uma parcela única de 30 dias (menos 1 ano de segurado) ou 50 dias (mais de 1 ano de segurado).

No seu caso, 63 anos, se for se desligar da empresa antes de completar os 65 anos por aposentadoria, como tem mais de 20 anos de cadastro no Seguro Desemprego, receberia um o equivalente de 150 dias e se requerer o

seguro após os 65 anos deverá receber o equivalente a 50 dias em uma parcela única (seu marido se enquadra nesta categoria).

*Cálculo do subsídio básico diário: soma dos últimos 6 meses de salário (salário bruto menos o bônus), dividido por 180 dias X 50 à 80%. Haverá limite máximo do valor diário para cada faixa etária. No seu caso faixa etária de 60 à 64 anos o limite máximo é de ¥7,294 (ago/2023), este limite é revisado todo o mês de agosto.

O requerimento deverá ser feito na agência do Hello Work mais próxima a sua residência.

Cartilha de elegibilidade para desemprego e outros benefícios do seguro-desemprego. (Japonês)

<https://jsite.mhlw.go.jp/okinawa-roudoukyoku/content/contents/001322490.pdf>

相談 2000年のはじめ、日系2世である私と夫はより良い生活を求めて、当時6歳と8歳の2人の子供たちと一緒に日本にきました。自動車部品工場で働くためです。私たちは日本語を話すことができたので、すぐに小さな工場での仕事をしました。3年間はアルバイトとして働きましたが、私たちの勤務態度や仕事を覚えるスピード、他の従業員との良好な人間関係などを評価してくださった社長が、私たちを正社員として雇用してくださり、日本人と同じ条件で働いています。

現在私は63歳、夫は66歳です。夫が65歳になったとき、夫は会社から「契約変更なし(月給と賞与年2回)で70歳まで働き続けてほしい」と頼まれました。夫は工場でも優秀な従業員の1人であり、会社もまだ彼の後任を望んでいなかったためです。年金額が少し増える点も魅力で、夫はその提案を受け入れました。

現在子供たちは近隣の町でそれぞれの家族と暮らし、仕事もしています。私は65歳までは働くつもりですが、元氣なうちに孫たちとの時間も楽しみたいと思っています。そこで、失業保険は何歳まで受給できるのか、また手続きの流れについても知りたいです。

回答 日本にいられた当初は、たとえ日本語ができたとしても、仕事や子育てなどで大変な事も多かったことと思います。しかし、ご努力のおかげで職場でも信頼される存在になられたのは素晴らしいことだと思います。

失業保険は、職を失った労働者に対して支給されるもので、生活の安定を図り、早期に再就職できるよう求職活動を支援することを目的としています。この給付には、一般の被保険者(65歳未満)向けの「基本手当」や、65歳以上で継続して働いている人のための「高年齢求職者給付」などがあります。

基本手当の受給日数は、加入期間と年齢によって異なります。65歳未満の「一般被保険者」は、年齢と加入期間に応じて支給されます。65歳以降に会社を退職する場合は、加入期間に応じて、30日分(被保険者期間1年未満)または50日分(被保険者期間1年以上)の一時金が支払われます。

あなたは現在63歳で、これまで20年以上保険に加入されているため、65歳になる前に退職する場合は、約150日分の基本手当が支給されます。65歳以降に申請される場合は、約50日分の基本手当が一度に支給されます。(あなたのご主人はこのカテゴリーに当てはまります)。

※基本手当の計算方法:過去6カ月の平均賃金(ボーナスを除く)を180日で割った額の50～80%。年齢によって受け取れる金額の上限が設定されています。あなたの場合、60歳から64歳までの年齢層ですので、2023年8月時点での上限額は1日あたり7,294円となります。この上限額は毎年8月に見直されます。失業保険の申請は、お住まいの地域のハローワークで行います。詳しい手続きについてもハローワークにお問合せください。

雇用保険の失業等給付受給資格者のしおり

<https://jsite.mhlw.go.jp/okinawa-roudoukyoku/content/contents/001322490.pdf>

令和6年度外務大臣表彰 当協会茂木真二評議員が受賞

当協会の茂木真二評議員が令和6年度の外務大臣表彰を受賞し、8月8日に外務省飯倉公館にて表彰式が行われた。

茂木氏はブラジル出身の日系2世で、サンパウロ大学電子工学部を卒業後の1991年に来日した。日本企業でのインターンシップを経験後、92年に土木および解体業の会社を起業。経営を軌道に乗せる傍らで、当時在日ブラジル人が抱えていた子弟の教育や就労、生活上のさまざまな課題の解決と支援のために設立されたNPO法人サビジャ(在日ブラジル人を支援する会)の活動に積極的に関わり、2013年に理事、翌2014年に代表理事に就任し(～2021年)現在もその活動を継続している。

支援の対象は在日ブラジル人だけにとどまらず、2011年の東日本大震災では、発生から1週間後に自社のトラックに重機を積んで現地へ赴き、瓦礫撤去や生存者の捜索などを行った。その後も継続的に被災地に足を運び、支援物資を届け炊き出しを行う等の支援活動を続けた。この時の実績はブラジル政府からも認められ、2012年にはブラジル最高勲章の1つであるリオ・ブランコ勲章も受章している。2016年の熊本地震、2019年の台風19号による洪水被害の際にも被災地での支援活動を行っているほか、ブラジルフェスティバル等にも参加し、国際交流や日伯の友好に寄与してきたことが評価され、今回の受賞となった。



上川外務大臣と握手する茂木氏

日系社会 Topics

サンパウロ日本館 建設70周年記念式典

サンパウロのイビラプエラ公園内にある日本館が今年で建設70周年を迎え、これを祝う記念式典が8月28日に開催された。1954年に、サンパウロ市の市制400周年を祝し日本政府とブラジル日系社会が協力して建設・寄贈された日本館は、資材をすべて日本から取り寄せ、桂離宮を模した伝統的な数寄屋造りの建築物となっている。日伯友好の象徴であり、日本文化に触れられる場として市民に親しまれ、天気の良い週末には約1500人ほどの来場者が訪れるという。

式典では、ブラジル日本文化福祉協会(文協)の石川レナト会長が主催者として挨拶をしたほか、ブラジル日本都道府県人会連合会、日伯文化連盟をはじめとする日系団体、在サンパウロ日本国総領事館、国際交流基金、JICA、JETRO、日系人政治家等が参列した。当協会田中克之理事長も日本から駆け付け、「日本人移民の先人たちの活躍はブラジルに多大なる影響を与えてきた。今後も日系人の歴史を節目ごとに思い出ししていきたい」と祝辞を述べた。



石川文協会長ほか参列した来賓のみなさん(左から4番目が田中理事長)

ボリビア・コロナオキナワ 入植70周年

ボリビアでは8月17日に、サンタクルス県のコロナオキナワ(オキナワ移住地)で、入植70周年を記念した式典と祝賀会が開催された。式典の前には先没者慰霊祭も行われた。

コロナオキナワは、サンタクルス県の中心都市サンタクルス・デ・ラ・シエラから約80キロ離れた場所に位置する。日本以外で唯一「オキナワ」の名前を持つ行政区だという。第1～第3移住地に区分され、約240世帯800人ほどの日系人が暮らしている。小麦や大豆を中心とした農業で発展し、沖縄系の人々のおかげでボリビアの食糧生産が豊かになったと称されている。

オキナワ日本ボリビア協会の中村侑史会長は、式典の挨拶で「これからは2、3世の時代。今後も邁進していく」と語った。

ミニ展示「回顧 在日ペルー人社会の35年 一環(還)流する人びと」 JICA横浜 海外移住資料館

海外移住資料館では、在東京ペルー共和国総領事館との共催で、ミニ展示「回顧 在日ペルー人社会の35年 一環(還)流する人びと」を開催する。リーマンショックや新型コロナウイルスの流行など、様々な困難に直面しながらも日本社会に根を降ろしてきた在日ペルー人社会35年の歴史を、写真や資料、統計データなどを通して振り返る。11月2日(土)には、真岡市国際交流協会のハイメ・タカシ・タカハシ氏を招いてZoomオンライン公開講座「帰還一柵木県真岡市でのデカセギ35年史(仮)」を開催する。

展示は10月8日(火)～11月24日(日)まで。月曜休館(祝日の場合は翌日休館)

NIKKEI No.62
海外日系人協会だより **Network**
2024 OCT.

発行／(公財)海外日系人協会 〒231-0001 神奈川県横浜市中区新港2-3-1 JICA横浜2F
TEL:045-211-1780 FAX:045-211-1781
E-mail:info@jadesas.or.jp URL:www.jadesas.or.jp 編集発行人／椿 秀洋

日本での生活を
もっと安心に!

オススメ

短期滞在・在住者向け保険
VIVA MED-S・VIVA MED-30
(Life and Health coverage)

- ・短期滞在は医療保障最大100%の**VIVA MED-S**
- ・在住には医療保障30%の**VIVA MED-30**がそれぞれオススメです。



外国人社員・スタッフ向け保険
VIVAライト・VIVAガード
(Life and Health coverage)

- ・年間保険料12,000円(1ヶ月あたり1,000円)からと手頃な価格で用意。
- ・外国人スタッフの福利厚生の一環としてオススメです。

少額短期保険会社
㈱ビバビダメディカルライフ
VIVAVIDA MEDICAL LIFE CO.,LTD
関東財務局長(少額短期保険)第51号

その他ビザに応じた各種保険を用意!



For more information, call:

TOLL FREE: **0120-656-684**

TEL: **046-265-6685**

Visit **www.vivavida.net**

